

第 6 学年体育科学習指導案

日 時 平成 20 年 1 1 月 2 1 日 (金) 5 校時
 場 所 久慈市立久慈小学校 体育館
 児 童 6 年 3 組 男 1 7 名 女 1 7 名 計 3 4 名
 指 導 者 田 代 英 樹

1 単元名 「パス パス みんなでシュート」(E ボール運動 ア バスケットボール)

2 単元の目標

運動への関心・意欲・態度	バスケットボールの学習に関心をもち、練習やゲームに進んで取り組もうとする。
運動についての思考・判断	チームの特徴や課題を見つけ、それをもとに練習したりゲームの作戦を立てたりしている。
運動の技能	ボールを持っているときといないときのそれぞれの技能を身に付けてゲームができる。

3 単元について

(1) 教材観

第 5 学年・第 6 学年の「E ボール運動」の中のバスケットボールの内容には、「攻守が入り交じって行うゲームの特性に応じて、チーム内の攻防の役割を分担し、パスやドリブルを使ってボールを運びシュートする技能や防御の仕方を身に付けてゲームをする。」とある。

バスケットボールは攻守が入り乱れ、互いのゴールにボールを入れることをめぐる攻防が繰り広げられるゴール型のゲームである。バスケットボールには次のような特性がある。

【バスケットボールの特性】

プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> ・得点がたくさん入るため、得点する喜びを体感できる。 ・チームの構成人数が少なく、1人あたりの触球量を保障できる。 ・攻守が入り乱れながらゲームが進むため、瞬時の判断力や空間認知力を養うことができる。 ・チームの構成メンバーで協力してゲームを進めるため、集団の一体感を生み出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートがパス的で、技能的に難しく、積極的に打てない児童もいる。 ・パスが回らなくても個人の能力だけで得点することができる場合がある。 ・判断力や空間認知力が身に付いていないと、ゲーム中動き方が分からない児童もいる。 ・メンバーのコミュニケーションがうまく図られないと、チームの雰囲気が悪くなることもある。

(2) 児童観

ほとんどの児童が運動することや体育の学習が好きである。バスケットボールについては 4 名がスポーツ少年団で活動している。また、下学年までに全員が体育の授業でバスケットボールを経験してきている。全員が経験済みとは言え、技能差は大きいのが実情である。

本単元の学習に関する事前調査の結果、バスケットボールに対してプラスイメージを持っている児童が学級の約 3 分の 2、マイナスイメージを持っている児童が約 3 分の 1 いることが分かった。バスケットボールを楽しんでいるのは、「シュートが入ったとき」「パスが回ってきたとき」という回答が多かった。一方、楽しくないと感じるのは「パスが回ってこないとき」という回答が大多数を占めた。その回答を詳しく分析してみるとパスが回ってこないことについて大きく分けて 2 つの要因があることが分かった。1 つはチームワーク意識が十分でないこと、もう 1 つはボールを持っていない場合の動き方が分からないことであった。

(3) 指導観

教材の特性と児童の実態から、次の点について重点的に指導していくこととする。

ア ボールを持っているときの基礎的な技能であるシュート、パス、ピボットについてドリルゲームを中心に習熟を図る。また、ボールを持っていないときの基礎的な技能を空いているスペースに走り込む動きと、ノーマークを作り出す動きとし、タスクゲームを中心に習熟を図る。

イ ゲーム中にメンバー全員がシュートを打つことができたら追加得点を与えたり、前試合でシュート数が最も少なかった児童がシュートを決めた場合にも追加得点を与える等のルールを設定し、どの児童も積極的にシュートが打てるようにする。

ウ タスクゲームでは攻撃時におけるボールを持っていない場合の動き方や、シュートにつながる動き方について絞って学習できるように、敢えて攻撃側が数的に優位な人数でゲームを行わせる。

エ 次のゲームに向けた作戦を考えさせる際、作戦を練ったり、ゲームを振り返ったりする客観資料として、ボールタッチ数やシュート数を記録させそれをもとに話し合いをさせる。

オ 単元を通して、仲間のプレーに対し賞賛したり励ましたりする声掛けができるよう折にふれて指導する。

4 指導計画及び評価規準（全10時間）

時間	ねらい・主な学習活動	学習活動における具体の評価規準		
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
第1次 1 2	○オリエンテーション ・学習のねらいと進め方を知る。 ・学習の約束やバスケットボールのルールを確認する。 ・シュート、パス、ピボットの練習をする。 ・試しのゲームを行う。	・学習のねらいや流れを理解し、バスケットボールを楽しむための活動に進んで取り組もうとする。 ・場所や用具の使い方を確認し、安全に気をつけようとしている。		
第2次 3 4	○ボールを持っているときと持っていないときの基礎的な技能を身に付ける。 ・ドリルゲームをする。 ・ドリルゲームについて自分やチームの課題について話し合う。	・チーム課題の解決に向かって進んで取り組み、バスケットボールの楽しさを味わおうとする。 ・友達と励まし合ったり教え合ったりしている。	・自分やチームのメンバーの技能課題を把握し、めあてを立てたり練習を工夫したりしている。	・ドリルゲームを通して、シュート、パス、ピボットができる。
第3次 5 6 7 8 9	○空いているスペースに走り込んだり、ノーマークを作り出したりする動きを身に付ける。 ・ドリルゲームをする。 ・タスクゲームをする。 ・作戦を確認し、練習やゲームをする。 (5,6,7時間はハーフコートで3対3のゲーム、8,9時間はフルコートで5対5のゲームを行う。) ※本時第7時	・チーム課題の解決に向かって進んで取り組み、バスケットボールの楽しさを味わおうとする。 ・ルールやマナーを守ってゲームをしようとしている。 ・友達と励まし合ったり教え合ったりしている。	・自分やチームのメンバーの技能課題を把握し、めあてを立てたり練習を工夫したりしている。 ・チームの特徴や課題に応じた作戦や練習方法を話し合い、試している。	・ドリルゲームを通して、シュート、パス、ピボットができる。 ・空いているスペースを見つけ走り込んだり、ノーマークを作ったりする動きからパスを受け取ることができる。
第4次 10	○バスケットボール大会をする。	・正しい態度を取り、ルールやマナーを守ってゲームを楽しんでいる。	・友達のよさやがんばったことを見つけている。	・チームの作戦にあった動きができる。

5 本時の指導（7時間目／10時間中）

(1) 目標

空いているスペースを見つけ走り込んだり、ノーマークを作ったりする動きからパスを受け取ることができる。（技能）

(2) 指導にあたって

本時は「バスケットボール」の学習の第6時である。これまではドリルゲームを中心に学習を進め、ボールを持っているときの技能の向上をねらってきた。一方、前時から学習しているタスクゲームではボールを持っていないときの動きを課題に学習を進めている。本時も前時と同様に空いているスペースに走り込んだり、ノーマークを作り出す動きの質を高める学習にしていきたい。

(3) 展開

段階	学習活動	・教師の支援と留意点	◇評価 ・用具
は じ め 15 分	1 整列, 挨拶, 準備運動	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我防止, パフォーマンス向上のため, 体をほぐす運動を行う。 ・バスケットボールの学習に必要な動きのもとになる運動に取り組みさせる。 ・バスケットボールを使ってシュート, パス, ドリブル等のボールを持っているときの技能に関わる練習をする。 ・シュート, パスについてゲーム形式のもと, チームで競争(得点化)しながら練習する。 ・ドリブルゲームの得点を学級全体としても集計し, 学級の成長も実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブス ・ボール ・掲示資料
	2 類似運動(バスケットセット)		
	3 ドリルゲーム		
	4 学習内容の確認		
	上手にパスをもらおう。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・上手なパスのもらい方として, <ul style="list-style-type: none"> ①空いているスペースに走り込む ②走り方に緩急をつける ③走る方向を急に変える の3つを確認する。 	
な か 25 分	5 タスクゲーム(3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・有効なスペースを見つけ, 走り込んでパスを受けたり, マークをはずしてノーマークを作り出したりしてパスを受ける練習をする。 ・攻撃側が1人多い, 3対2の人数で行う。 ・ハーフコートの3対3で行う。 ・ゲームに出ていない児童は, 自分のチームのゲームの様子を記録をする。 ・記録をもとに話し合う。 <p>【学び合い】</p> <p>☆ゴール前のスペースに走り込んだりノーマークを作り出したりする動きからパスを受け取ることができていたかどうかについて, そしてそれがシュートに結びついていたかについて記録をもとに振り返らせ, 次のゲームに向けた作戦を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに再度ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフコート4面 ・得点板
	6 ゲーム①(9分)		
	7 話し合い(4分)		
	8 ゲーム②(9分)		
お わ り 5 分	9 整理運動	<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉をほぐすようにゆっくりと整理運動を行わせる。 ・学習内容を振り返り, 次時へ生かしたい内容と, 紹介したい仲間のがんばりについて発表させる。 ・指導者から学習の様子について紹介し, 次時への意欲付けとする。 ・次時からはフルコートで5対5のゲームを行うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇空いているスペースを見つけ走り込んだり, ノーマークを作ったりする動きからパスを受けることができる。 ・学習カード
	10 学習の振り返り		
	11 挨拶		

(4) 具体の評価規準

観点	評価規準A	評価規準B	努力を要する児童への手立て
技 能	相手ゴール付近でパスを受け, シュートが打てる。	空いているスペースを見つけ走り込んだり, ノーマークを作ったりする動きから, パスを受けることができる。	3つのパスのもらい方について確認し, 教師も一緒に走り, スペースの見つけ方や動き方を実際に試してみている。

(5) 類似運動と主運動との関わり

類似運動	クラブキャッチ	平衡感覚, ボール捕捉感覚, ボールタッチ感覚
	バウンドキャッチ	